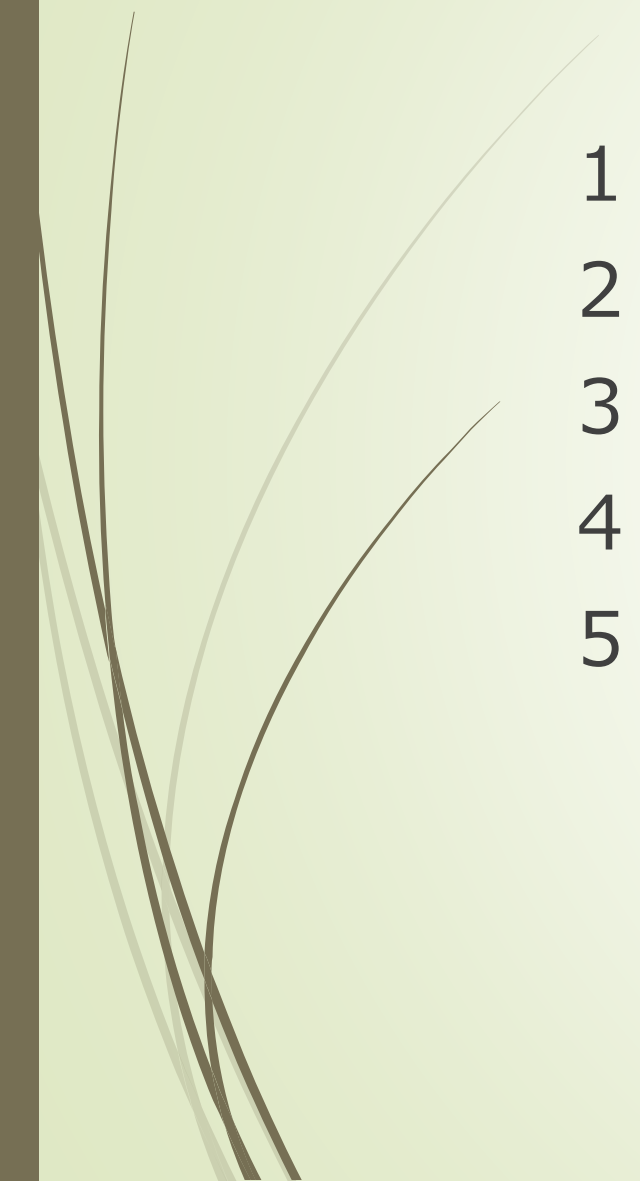




金沢法務少年支援センター
(金沢少年鑑別所)

統括専門官 (考査担当)
杉木 淳一

非行・問題行動のある子どもの
支援について

- 
- 
- 1 自己紹介
 - 2 法務少年支援センターについて
 - 3 非行や問題行動の動向とメカニズムについて
 - 4 モデルケースの紹介
 - 5 能登半島地震被災者の心理支援について

自己紹介

法務省専門職（心理職）として・・・

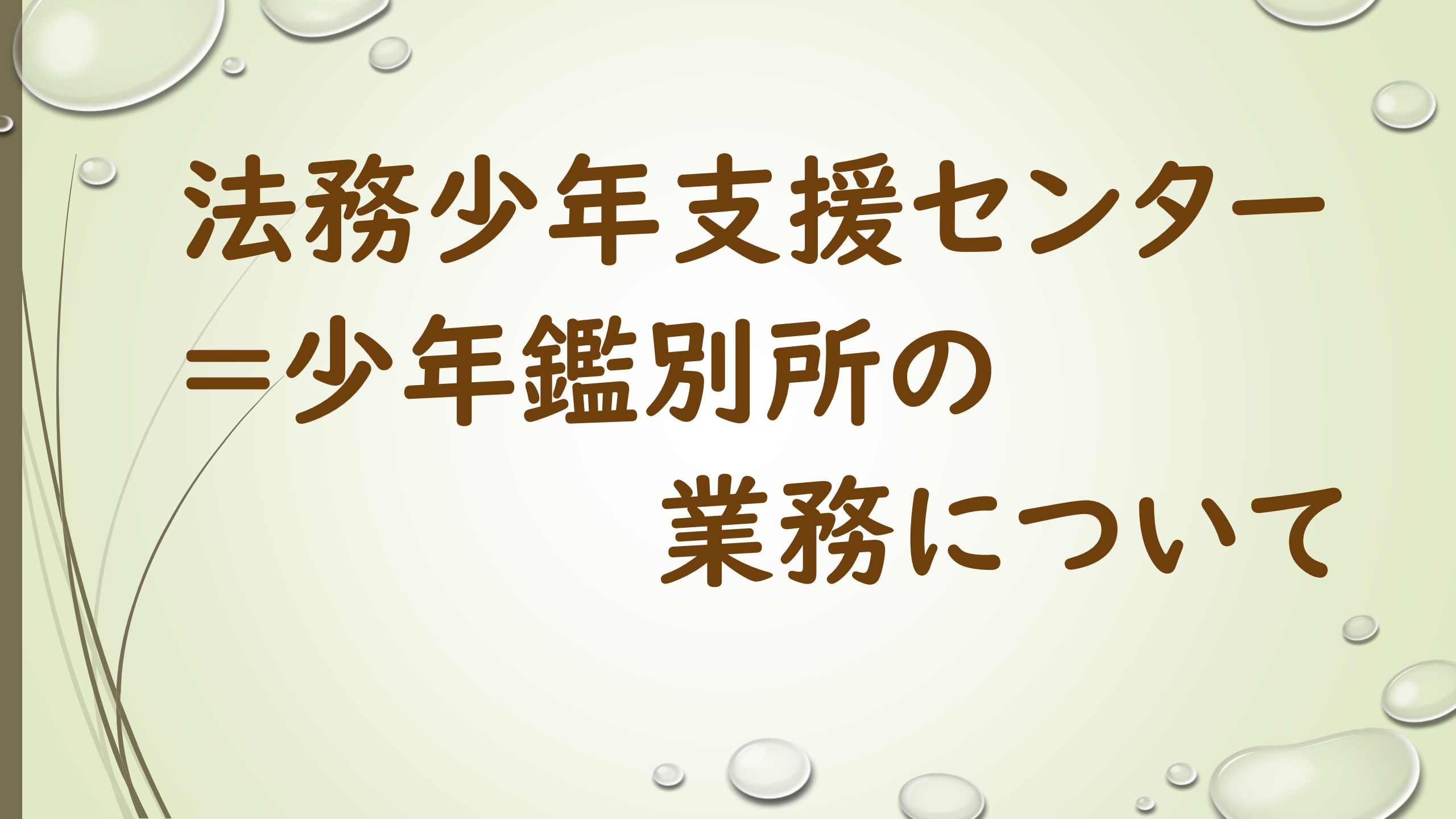
少年鑑別所では

非行のある少年の鑑別、処遇方針の検討、
在所者のカウンセリング、地域の相談対応、心理職の育成
能登半島地震被災者支援

刑務所では

受刑者の調査・カウンセリング・グループワーク

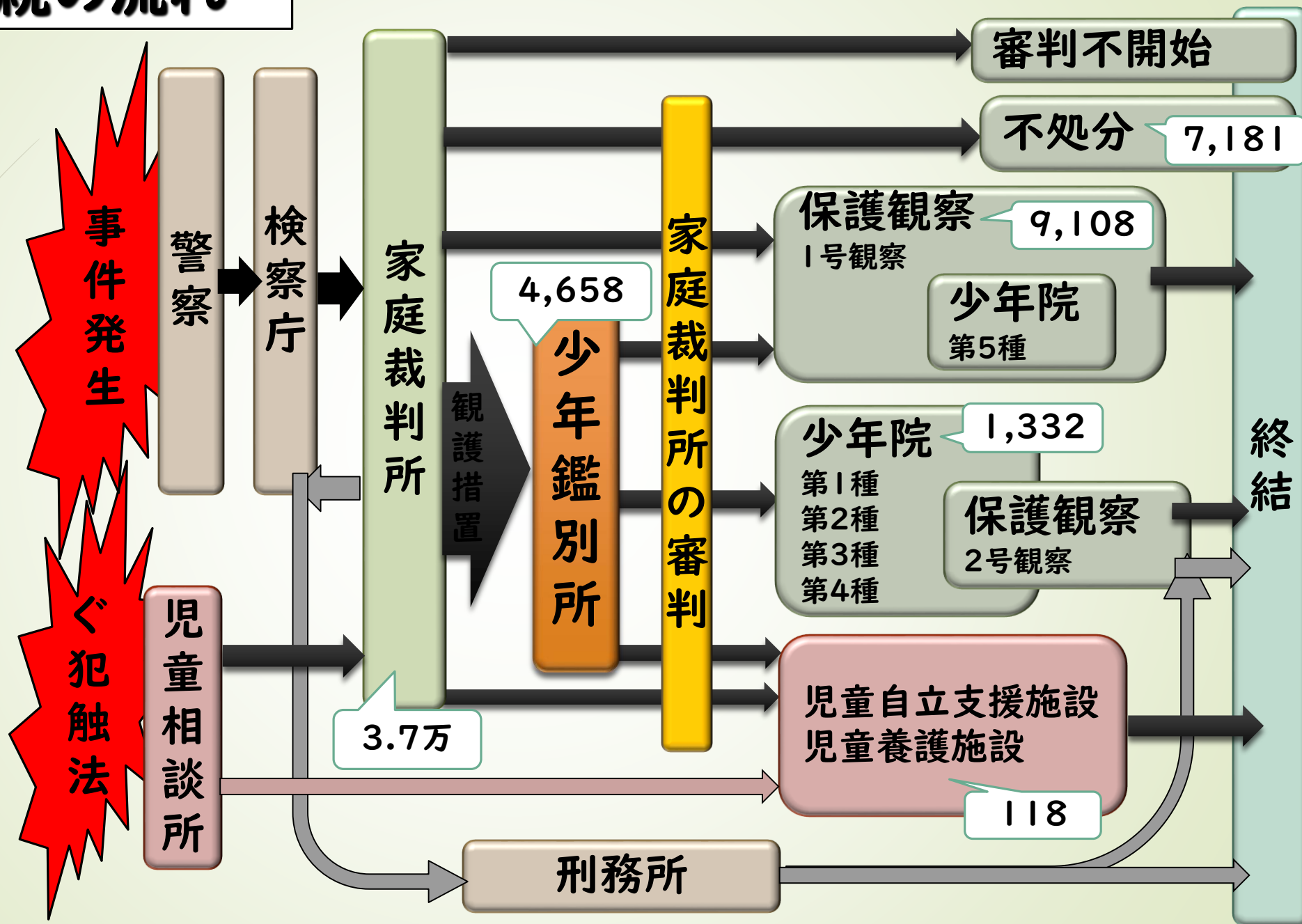
→若年、性犯、薬物犯、生命犯、累犯者、暴力団関係者、
女性、高齢者、外国人など



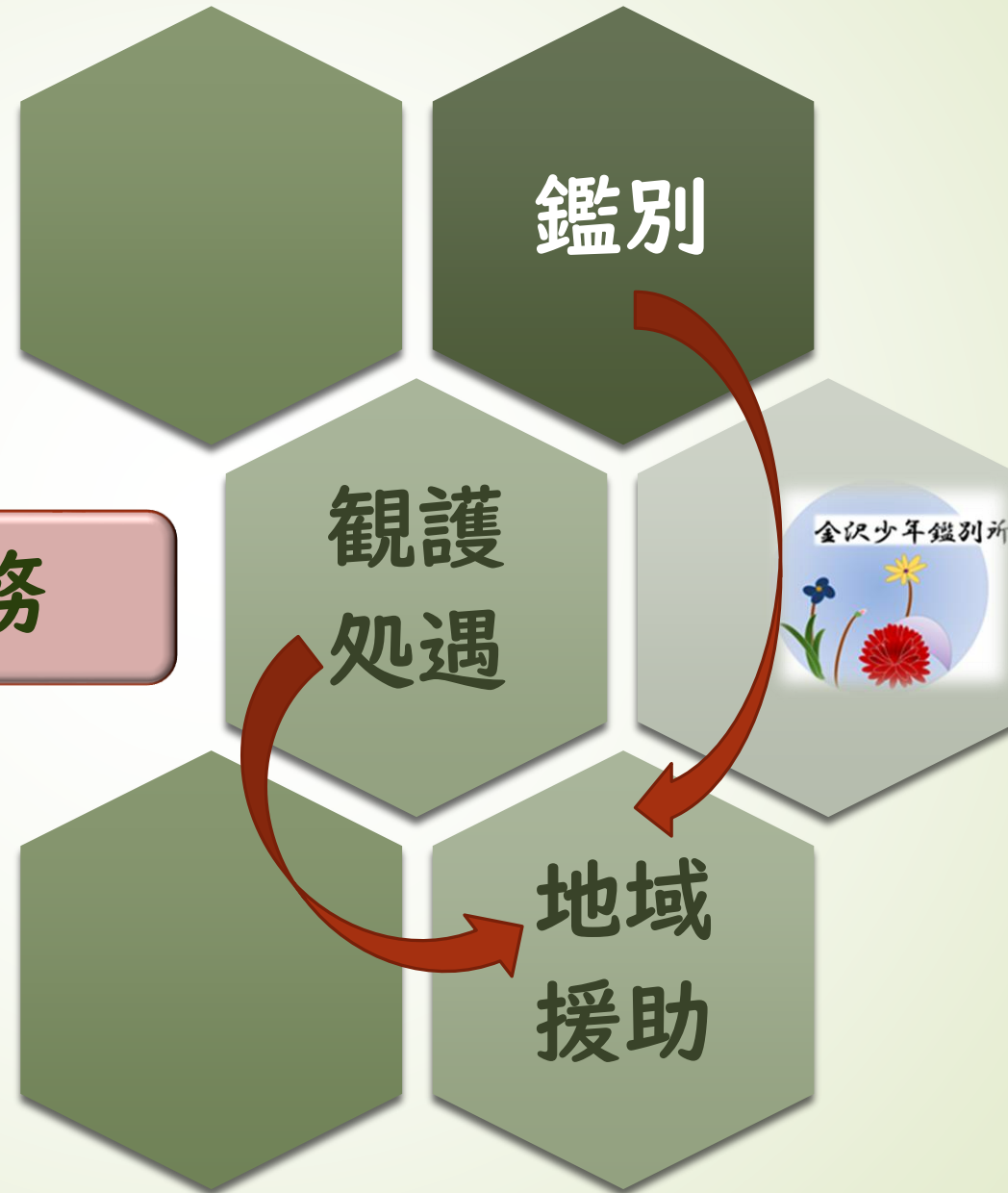
法務少年支援センター ＝少年鑑別所の 業務について

少年司法手続の流れ

令和4年の取扱件数(令和5年版犯罪白書)



少年鑑別所の3大業務



鑑別とは（医療モデルとの対比）

医療モデル

訴え

治したい！

問診
診察

検査

診断

治療

見
立
て

確
認

処
方

鑑別

入所

問診
面接

心理検査
行動観察
など

鑑別
結果
通知

教育
・
支援

治療動機が乏しい！

矯正教育
(少年院)

保護観察
(保護観察所)

地域援助業務とは

鑑別・観護処遇業務で培った知識・経験・技能を相談・支援に

●個人援助：

対象者本人、親御さん等からの直接相談依頼

●機関等援助：

学校、警察、児相等関係機関と連携・協働依頼

＊個別事例の支援

＊事例検討会参加

＊研修講師派遣

＊出前授業

対象者の年齢制限は
ありません！

例：SNSリテラシーの出前授業

依存について



やらなければならないことを差し置いて、依存していることや物質を最優先にしている状態

依存⇒ 軽度 ───▶ 重度

脳に変化が起こる インターネット依存度テスト（IAT）

どんな問題があるの？

インターネットの匿名性	個人情報保護
自由、制限なし	誹謗・中傷
コミュニケーションの変化	消せない・コピー、拡散
長時間の使用	言葉のみ・直接
	インターネット依存・ゲーム障害



地域援助の事例

- ①発達障害や高次脳機能障害等のある生徒の学校適応に向けた支援
→学校、福祉機関、医療機関、デイサービスとの連携
- ②知的障害や認知症が疑われる被疑者の入口支援
→起訴前の知能検査や認知症スクリーニング検査の実施
- ③成人の触法障害者の再犯防止に向けた支援
→対象者への心理教育、支援機関によるケース会議の実施
- ④地域の関係機関の職員等の研修・講演
→対人援助職のメンタルヘルス、施設内非行への対応、面接技法
いじめ対応、ハラスメント防止などについて

非行や問題行動の 動向とメカニズム について

➤ 非行・問題行動のある対象者の理解に向けて

対象者の一側面だけで臨床像を決め付けない

- ・ 窃盗犯は、物欲に任せて行動する人？
- ・ 性犯罪者は、性欲が異常に強い人？
- ・ 支援者に暴言を吐く人は、他人の痛みが分からない人？
- ・ 仕事が長続きしない人は、忍耐力がない人？

対象者理解に向けた面接・対話

目に見えている対象者の状態から、
本当の課題（ニーズ）にたどり着くための協同作業

非行や問題行動のある子どもは、どんな子か？

★家庭の問題

被虐待等の不適切養育・親の過剰な期待又は絶望
生活困窮等の生活に苦戦する親

★学校の問題

学業不振・いじめ被害等

★資質面の問題

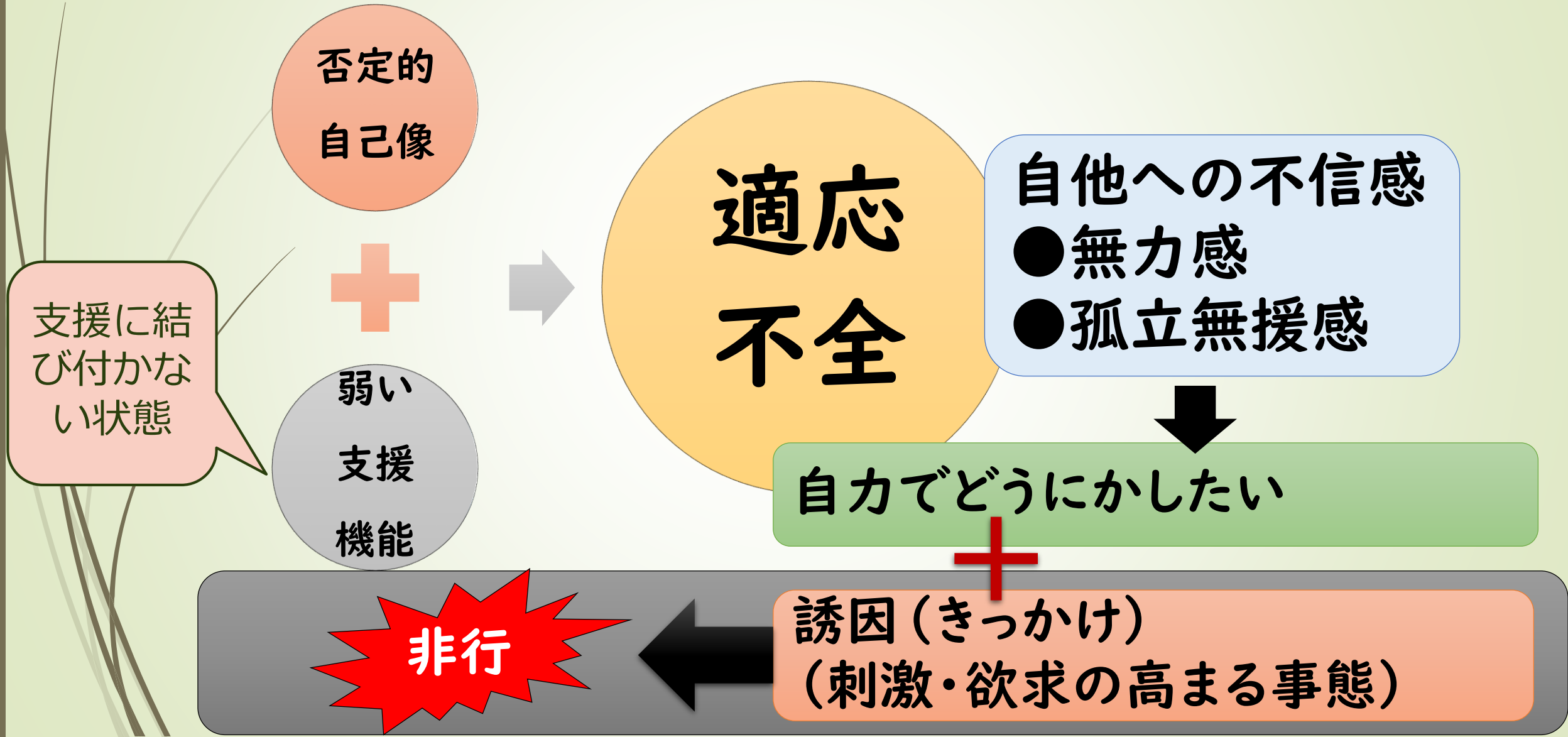
発達特性から対人関係に苦戦
知的問題から学業適応に苦戦

生きづらさを抱えている。



安心して過ごせない
適応不全への不安・不満

非行・犯罪とは、適応不全・自己価値等につつまれる
不安・不満の解消・緩和のためのもがき



否定的自己像

＜受傷体験＞をベースにした「**かけがえない自分**」という感覚の弱さ

★逆境の体験

子どもらしい、「**大切なわがまま**」が言えない環境

★いじめ被害

疎外感、対人不信（対大人、対同級生）

★特性に応じた支援が不十分

対人適応に苦戦、学業不振

努力はしているが奏功しない体験

自分を大切に思えない＝他者を尊重できない

弱い支援機能（支援を得られない・求めない）

逆境的体験、発達特性、いじめ被害等による学校不適應や、
疾病・障害、対人トラブル、加齢等による社会不適應へのケアが不十分

だれからも助けてもらえないあきらめ、不信感。
特に大人を頼りにしにくいと感じがち。

アクセス
失敗も

支援拒否

支援への動機付け

支援へ

粘り強く関わる

本人の「本当は助けてほしい、現状を変えたい」を信じること
むしろ、助けてくれる存在として信じてもらえること

少年の非行の動向について

ー非行の今と昔ー

反社会的

集団による非行

暴走族・不良生徒集団

不良文化の取り入れ

⇒

非社会的

単独での非行

SNS上・急造の犯罪集団

社会適応上の困難さ

- ・暴走族の著しい減少
- ・薬物乱用はシンナーから大麻へ
- ・家庭内暴力の増加
- ・小学生の校内暴力の増加

信じてもらえる支援者になるために

- ◎小手先の技術や同情心は見透かされる。
- ◎問題点の指摘より、伸長すべき点を見つける努力。
- ◎問題点の指摘より、問題の背景を考えること。
- ◎正しさや熱意だけでは、通用しないことを知る。
- ◎「信じれば通じる」とは限らないこと。
- ◎あくまでも支援者に過ぎないことを理解しておく。
- ◎単独又は少数で対応できると過信しないこと。

<支援者の役割>

- ★本人をその気にさせること
- ★適切な判断ができるように支えること
- ★本人がその気になったときに使える武器（対人スキル、学力、職業技術等）を提供すること
- ★その気になった本人に伴走し、孤立させないこと

支援者にとって大切なこと

ー非行臨床の専門職として考えていることー

- ①対象者の全てを理解することはできないこと
- ②一人の支援者・支援機関だけでできる援助には限界があること
- ③援助の目的や対象者のニーズを意識すること
- ④支援者が健康でなければ、より良い援助はできないこと
- ⑤ケースがうまくいったのは対象者が頑張ったからであること

モデルケースの紹介

～ 剛田 武くんの場合 ～



※杉木の知り得る限定的な情報に基づく私見です。

剛田 武

小学6年生・男

同居家族：父、母、妹

問題行動：他児童（主に骨川くんと野比くん）への粗暴行為等

学校適応状況：毎日登校している。学業成績は悪い。

参考情報：教師や両親に反発することはない。

自宅が商店であり、母親に頼まれて店番をしている。

スポーツや歌うことが好き。

窮地にある野比くんなどを助けるときがある。

女子児童や出木杉くんに粗暴行為はほとんど向かない。

問題行動について①

骨川くんや野比くんの漫画本やラジコン等の持ち物をうらやましがり、「貸せ。」と言って、貸出を強要する。相手が応じないと、手拳で頭を殴るなどして、持ち物を奪い取る。一度、借り受けると、なかなか返そうとせず、返す頃には壊れたり汚れたりしていることが多い。こうしたやり取りの中では、「お前の物は俺の物、俺の物も俺の物。」と主張するばかりである。

母から叱られたり、手伝いを頼まれたりして、イライラしているところに、骨川くんや野比くんに遭遇すると、八つ当たりの的に暴力を振るう。この八つ当たりは、近所の小さな子や犬等に向けられることもある。

骨川くんと一緒になって、野比くんをからかったり、遊びの仲間外れにしたりする。

こうした行動は、学校内ではほとんど見られない。

問題行動について②

野球のメンバーが足りないときにだけ野比くんを誘うが、試合に負けると、野比くんのせいだと言って必要以上に叱責する。

対象者本人は歌唱に自信があり、自分の歌を人に聞かせたい気持ちが強い。しかし、周囲は対象者の歌を聞かされることを嫌がっているが、それには無頓着で、歌唱イベントを開催しては同級生等を強引に誘って参加させている。



問題行動等への指導状況について

野比くんへの粗暴行為等については、母が把握することもあり、その際は、尻を叩くなどの暴力を伴いながら厳しく指導されている。

父は自宅にいないことが多いようであり、日常の指導は母が行っている。ただし、父が対象者の不適切行動を知った際には、口頭で厳しく指導している様子である。

学校は、骨川くんや野比くんへの粗暴行為を細やかに把握しておらず、学校生活態度に関する指導以外には担任教諭からの働き掛けはない。

指導等への反応について①

骨川くんや野比くんから、貸し出した物が壊れていると言われると、「そなんん知るか。何か文句あつか。」と威圧的な態度で言い、2人に有無を言わさず受け取らせる。

空き地近くの家に、自分が打って入れたボールを自分で取りに行かず、他の児童に取りに行かせる。また、操縦しているラジコンに不都合が生じると、骨川くんコントローラを押し付ける。

両親から叱られているときや、教師に廊下に立たされるときには、反発することは一切ない。母から叱責を受けそうになると、「ごめんよ、母ちゃん。」などと、声色を変えて下手に出る。同様に、近所の年上の者に対して、基本的に下手に出る。

指導等への反応について②

野比くんなどが窮地にあると、自分の危険を顧みずに助けようとする。反対に、自分の窮地を救われると、「心の友よ。」と言って、泣きながら感謝する。時に、自分に都合良い方へ野比くんを促そうとするときにも、「心の友よ。」と申し向けることがある。

骨川くんや野比くんから、自分の問題を指摘されると、逆上して激昂する。一度激昂すると、気が済むまで相手を追い回し、暴力を振るう。

家庭環境について（母）

母は、ほとんど休みなく自宅で商店を営んでいる。学校から帰ってきた対象者に店番や商品の配達を頼むことがある。この手伝いは、対象者の予定にかかわらず、従わざるを得ない様子である。対象者は、母に畏怖している印象があり、目の前に母がいない状況でも、「武！」という母の声を聞くだけで震えあがっている。

母に厳しく叱られたことを聞くと、未就学児の頃に、おねしょをした際、母に罰として物置に閉じ込められたことを挙げており、思い出すだけでも冷や汗が出るとのことであった。

家庭環境について（父）

父は、自宅外で稼働しているようであり、日中は不在にしている。そのため、父から叱られることは少ないようである。

父に厳しく叱られたことを聞くと、小6のテストで、ずるをして100点を取った際、それを知らないはずだったが、今まで0点ばかりだったのに急に100点を取れるわけがないと言って見破り、「勉強はできなくても良いが、ずるだけはするな。」とかなり厳しく叱られたとのこと。

父は、母の意見を優先するところがあるようである。

家庭環境について（妹）

対象者は、妹のことをかなり溺愛しており、過剰に心配するところがある。妹も対象者のことを頼っているが、時に、対象者の過保護に辟易することもある。

妹は、野比くんのが好きであり、対象者には、それを気に入らないところもあるようである。

友人関係について

同級生男児と野外で遊ぶことが多い。特に、骨川くんと行動を共にすることが多く、そこに野比くんや出木杉くん（同級生男児）、源さん（同級生女児）が居合わせることも少なくない。

骨川くんは、裕福な家庭に育ち、漫画やおもちゃを欲しいままに買い与えられており、それを対象者や同級生に自慢することが多い。

野比くんは、対象者よりも学業成績が悪く、運動や腕っぷしも対象者に相当劣る。対象者から威圧されても、基本的に反発することはない。

出木杉くんは、学業成績が優秀であり、対象者が一目置いているようで、出木杉くんに相談することがある。

ここまでの情報を整理

- ・ 粗暴行為は、特定の相手に限定されがちである。
- ・ 母を畏怖している。暴力を伴う指導を受けることがある。
- ・ 年長者には反発できない。むしろ、へりくだる。
- ・ 学校では問題を生じにくい。勉強は苦手。
- ・ 生活上のイライラを八つ当たりに発散しがち。
- ・ 都合が悪くなると他罰的な反応を示す。
- ・ 妹を溺愛している。妹は被害児童に好意を寄せている。
- ・ 友人を助ける思いやりはあるし、相手を感謝する気持ちもある。

対象者との面接による情報

- ・大人に反抗しても、かなわないと思うので、納得いかないことがあっても我慢することが多い。でも、母ちゃんに店番を頼まれ続けると、陰口くらいは言いたくなる。
- ・母ちゃんのこととは好きだし、大切にしたいと思っている。一方で、母ちゃんの声の聞くと、何となく緊張感が生じるし、叱責されると、ただただ謝ることしかできなくなる。
- ・内心では、野比くんのことを友達だと思っているが、素直になれずに、つい暴力を振るってしまう。
- ・歌やスポーツなら負けない自信がある。本当は、女の子とままごとをするのも好き。
- ・妹のことがいつも心配になる。誰であって妹を傷付けたり泣かせたりすることは許せない。

得られた情報に基づく仮説

剛田くんにとっての暴力や友人関係の意味は...

- ・ 大人（特に母）に萎縮した関係を築きがちなことや、強い語気や暴力もあって大人に畏怖してきたことの意趣返しや鬱憤晴らし。
- ・ 反逆を恐れて、自分よりも弱い者にだけ向けている。
- ・ 自分に責任が及ぶことによる自尊感情が傷付くことへの恐怖を避ける。
- ・ 学業や家庭生活で自己効力感を見出しにくいだけに、相手を従わせることによって仮初めの自己優位性を獲得する。
- ・ 交友場面での歌やスポーツで自己効力感を得る。妹から頼られることによる家庭内の立ち位置を確保する。
- ・ 妹の第一支援者としての自分を脅かす被害児童への嫉妬や敵意。

得られた情報に基づく仮説

剛田くんの支援の糸口（動機付け）は...

- ・ 本当は友達を大切にしたい気持ちがある。
- ・ 暴力が良くないことは分かっている。
- ・ 自分の好きなことや長所を生かそうとする考えが見られる。
- ・ 大人の助言や指導を聞き入れる姿勢がある。



これらにつながる言葉を
対象者から引き出すことが
初回面接の肝

動機付けのポイント

「あなたが暴力を振るうから指導を受けなければいけない」のではなく、
「あなたの友達と仲良く過ごしたい気持ちを応援したいから、より良い方法を一緒に考えていく」という働き掛けが重要

支援方法の例

剛田くんに対しては...

- ・ 不快な気持ちを八つ当たりの的にぶつけないようになる。
 - 乱暴な態度に出るときの自分の認知や感情と行動のつながりに目を向ける
 - 物事の捉え方の中性化（コグトレ、カウンセリングなど）
 - 適切な感情表出方法の獲得（アンガーマネジメント、アサーショントレーニングなど）

環境面の支援

- ・ 親子間の関係調整、保護者への助言・カウンセリング
 - 保護者の悩みや葛藤が養育態度に反映されていることが多い
 - “嫁として、息子を剛田商店の跡取り息子として一人前に育てなければ”

プログラム例

「怒り」のコントロール法を学んでみよう！

日頃、「イラッ」としたり、「カチン」としたりすることは誰にでもあります。でも、その感情のまま行動してしまうと、後悔することも多くなりますよね。実は、**ちょっとしたコツ**を知ると、「怒り」感情のコントロールは格段に上手くなります。そして、その**ちょっとしたコツ**は、人間関係の中でいろいろと役に立つはずです。さあ、「怒り」で失敗することを減らして、気持ち良い生活を手に入れましょう。

こんな経験ありませんか？

- イライラしすぎて、ひどい言葉で友達をきずつけてしまった。
- 腹が立って、乱暴にモノをあつかってこわしてしまい、後悔した。
- 周りに「気が短い」とよく言われるけど、なおし方がわからない。
- 「落ち着いて考えると怒るほどのことじゃなかった。」とよく思う。

ちょっとしたコツ①

「怒り」と「悪い結果」の間には、「行動」があることを意識してみましょう。怒りがわいたとしても、行動次第で、良い結果につなげることできるようになりま

ちょっとしたコツ②

人には考え方のクセがあります。そして、「怒り」のわきににくい考え方を身に付けることができれば、心に余裕が生まれ、「逃げるが勝ち」といった対応が可能にな

当センターで行う「アンガーマネジメント講座」では、こうした「**ちょっとしたコツ**」について、暴力事件等を起こした人の処遇や教育に当たっているスタッフが、勤務経験を生かしながら丁寧に説明していきます。ぜひ積極的に参加して、一つでも多くのコツを学んでいただけたらうれしいです。また、もし皆さんの中に、この講座を受けた後、「もう少し勉強してみたい。」、「個人的な相談をしてみたい。」という方がいた場合にも、できるかぎり対応いたします。お気軽にお声をお掛けください。

金沢法務少年支援センター（076-222-4542）

アンガーマネジメント



指先センサーをつけてセッションをスタートすると、上記のグラフ画面が現れます。

Coherence Ratio		
Low	Medium	High
50	43	7

あなたの目標は、コヒーレンス比率グラフの緑の棒グラフを100%に近づけることです。

呼吸法トレーニング

ぼうりよく かんが 暴力について考えよう

ワークブックシリーズ①

法務少年支援センター



©法務省矯正局【無断複写・転載・配布禁止】

ワークブック

もう少し具体的に

暴力の背景にある情緒に目を向ける

- ・ 暴力当時の「イライラ」の正体は何か。

- 長々と説教されて、親にむかついた？

- 自分の問題を指摘されて自尊心が傷付いた？

- このままでは親に放されるかもしれないという不安が強まった？

- ⇒ 感情を明細化し、特に暴力に向かいやすい感情を特定する

- 特定された感情が刺激されやすい状況と認知（ものの見え方）を考える

- 認知がずれていれば、認知面の改善を目指す

- 認知に大きなずれがなければ、感情と行動の結び付き方を変える

支援上の留意点

動機付けを維持・向上できる方法を取り入れる

- ・達成状況の評価基準が明確であること

→乱暴な態度をしなかった日を可視化する

自分なりに「イライラ」に対処した内容を記録する

当面は、「暴力はダメだが、愚痴や暴言はセーフ」として評価する など

⇒自分自身の小さな成長を実感できることが不可欠である

一方で、支援者は失敗の一つ一つに一喜一憂しないことが大切である

→失敗を繰り返しながら、時間を掛けて成長していくことをあらかじめ覚悟して支援に当たる

まとめ

見立ても支援方法も十人十色

「暴力を振るう子にはコレ」といった特効薬はない

結局、一人一人の暴力につながる資質面と環境面の問題を
見立てて、オーダーメイドで支援方法を考えるしかない

⇒これは、どんな問題行動でも同じ

実務家として、

生まれながらに暴力的な人はおらず、少なからず生育環境の影響を受けているので、対象者への指導だけでは不十分な支援であると思っています。

まとめ

「人にされて嫌なことはしない」と言うように

「人に嫌なことをする子」は、

それをされた経験がある

低年齢であるほど、暴言や暴力は対象者本人が現実
に経験していることが多い

⇔年齢が上がるとメディアやオンラインによる疑似体験
も増える

このように、加害児童・生徒は被害者性を有している
ことが相当多く、過去の被害が劣悪であれば、被害者性に
配慮した指導や支援を考える必要がある。



暴力防止を例として

対象者の生育環境上の問題が暴力という形で発現している

つまり、対象者の問題行動を防止するためには、対象者を直接指導・支援するだけではなく、学校、医療機関、福祉機関といった対象者の生活環境に関係する大人が連携することが欠かせない。

保護者の精神衛生上の問題が子どもの問題行動に結び付いているケースは相当多い。

能登半島地震被災者支援について

奥能登でなくても
被災者はいます。



<法務省矯正局による被災者の心理支援>

石川県教育委員会 → 金沢法務少年支援センター

- ・東京管内、名古屋管内の法務少年支援センターの法務技官による
集団避難中の中学生及び教師への心理支援の実施

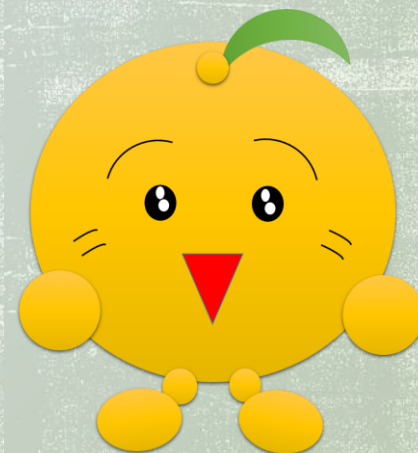
→ 詳細は配布資料をご覧ください。



<金沢法務少年支援センターによる被災者支援>

奥能登地域の学校 → 金沢法務少年支援センター

- ・生徒への心理的支援
- ・教員への心理的支援
- ・生徒との関わりについての相談
- ・生徒全体への心理教育



アニバーサリー反応

「あの日から1年」を迎えるときに起きること

- ・報道を通じて震災時の映像を見る機会が増える
- ・追悼行事が各地で開催される

当時の不安や恐怖を再想起する人（年齢問わず）は必ずいるが、「まだ引きずっている人」とか「能登で直接経験したわけじゃないのに」と見られるかもしれないという気持ちから不安等を人知れず抱えやすい ⇒ 心身の不調につながる

アニバーサリー反応

傷の深さは人それぞれ

傷が癒える（向き合えるようになる）タイミングも人それぞれ

2022年3月10日 ABEMA news /

これから津波の映像が流れます
PTSDを引き起こす恐れもあるため
視聴には注意をお願いします

初公開、津波映像1200万再生 撮影者の葛藤 ABEMA news /

「映像で当時の恐怖がフラッシュバックするから
毎年3月11日はテレビが見られない」

「この時期は本当に憂鬱…
毎年毎年 津波の映像を流す意味ある？」

初公開、津波映像1200万再生 撮影者の葛藤 ABEMA news /

「震災を知らない世代にも
正しく怖がってもらふ、意味で映像は不可欠」

「記憶を風化させないためにも 映像は必要」

初公開、津波映像1200万再生 撮影者の葛藤 ABEMA news /

アニバーサリー反応への対応①

「あの日から1年」を迎える準備

- ・児童・生徒への心理教育
- ・児童・生徒だけでなく、周りの大人の理解も得る工夫
- ・継続対応中の対象者には個別の説明も重要
- ・震災報道や追悼行事との向き合い方は人それぞれ



アニバーサリー反応への対応②

「あの日から1年」を迎えた後

- ・冬休み中の観察
- ・話をする場の提供
- ・保護者からの相談への対応
- ・要支援度や支援方針のアセスメント

